

平成 30 年度 第 4 回番組審議会

議 事 録

株式会社エフエム戸塚

横浜市戸塚区川上町 91 番地 1

平成 30 年 11 月 15 日

平成 30 年度 第 4 回番組審議会 議事録

- 日 時 : 平成 30 年 11 月 15 日 (木) 10:30～11:30
 - 場 所 : 株式会社エフエム戸塚 会議室
 - 出席者 : 番組審議会委員 4 名
金子富康、齊藤真美奈、齋藤進治、岩崎高広
(欠席: 井上弘毅)
 - 事務局 : 顧問・紺野望、局長・市川靖典 増田一輝
 - 議事録 : 番組審議会事務局作成
-

■議題

1. 番組 : 10 月 9 日 (火) 収録放送番組
「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」に関するご意見について
2. 放送番組全般に関するご意見・ご感想について
3. その他ご意見ご感想について

■議事

1. 番組 : 10 月 9 日 (金) 「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」に関するご意見～番組の説明～

この番組は毎週、火曜日、午前 10 時から午前 10 時 55 分まで、「高齢になっても、病気の時にも、障がいがあっても、安心して暮らせる街づくり」を目指して、介護・医療・福祉の情報をお届けしています。また、午後 2 時と 7 時に再放送しています。

—各審議会委員からの意見は次の通り。

審議会委員 (A)

- ・パーソナリティ自身が番組に対して工夫している部分が多くみられる。ゆっくりした話し方は効果的だった。ゲストとの話し方の違いがよい形で出ていたと思う。薬剤師のゲストは若い人の方がいいように感じる。話のバックに流れる音楽も効果的だった。
- ・薬剤師会の紹介についてもう少し柔らかく紹介しても良いのではないか。相浦さんの福祉関係に視点を置いた番組づくりは評価できると思う。

審議会委員 (B)

- ・パーソナリティ相浦さんに注目していたが、少しいメージが違った。それは独特のゆっくりとした話し方で、聴き手によっては、聴きづらい印象も受ける。間が空きすぎて放送事故と錯覚した場面もあった。

- ・企画説明に時間がかかりすぎている。番組名のコールまで7分もあり、初めて聴く人は番組の趣旨が分かりづらい。番組の最初にきちっと説明してから内容に入った方がイメージではないかと思った。
- ・語っている内容が深刻なのにBGMが明るいマーチの場面があり、ミスマッチのような気がした。
- ・薬剤師のゲストと相浦さんの話し方が、リズムが違い過ぎ、アンバランスだった。ゲストとは対話の形式の方が聴きやすかったのではないか。
- ・紹介された映画の紹介も分かりにくかった。もう少し分かり易い紹介の仕方がいいと思う。

審議委員（C）

- ・放送を聴き終えた後、リラックスした充実感を得られた。介護・福祉・医療に特化した事もあり、“ラジオで手話を聴いている”ような気がした。間のある話し方は聴きやすいように感じた。パーソナリティの個性がよく出ている番組と思う。
- ・リラックスして聴ける番組だったように思う。この番組を聴いてちょっとラジオの聴き方が変わったように思えた。

審議委員（D）

- ・番組は薬剤師のゲストの紹介まで、相浦さん一人で引っ張るため、相浦さんとゲストの話し方に違いがあった。むしろゲストとはインタビューのような形式にする方が良かったのではないかと思う。
- ・エッセイの紹介コーナーで、エッセイを紹介する途中で相浦さんの感想を述べる場面があった。話のテンションが単調なため、語りと感想の境目が分からなくなる事があった。
- ・番組の最初の方は、内容が非常に分かり難かった。車で聴いている人には、かなり分かり難い話し方、内容ではなかったかな、と感じた。
- ・良くも悪くもパーソナリティの個性が出た番組であると思う。

—各審議委員からの意見に対し、事務局からの回答は以下の通り。

- ・各委員の方々のご意見では、特定リスナーを対象にした当番組の進め方に置いて、異なった意見があった。特に話し方のゆっくりさに賛否が分かれたと思う。当番組のターゲットに対して相浦パーソナリティの話し方が適しているかどうか検討してみる必要があるというご指摘と思うので、パーソナリティと検討したい。
- ・番組には台本があるのか、あるいは構成作家が必要ではないかというご意見もあったが、その発言の意味は、番組構成や演出がもっと分かり易い方法があるのではないかという点であると思うので、パーソナリティの個性の出し方の中で十分に検討したい。

- ・委員のご指摘の「語りの間」に関しては、ターゲットとしているリスナー（障がいをお持ちの方、高齢者の方）を多分に意識したところがあると思う。相浦さんのゆっくりした話し方はリスナーにマッチしているかどうか、検討してみたい。
- ・リスナーによって好き嫌いは分かれるが、個性を発揮した番組であることは間違いない。今後、よりいっそう工夫して、充実した番組としていきたい。

2. 放送番組全般に関するご意見・ご感想について及び、3. その他ご意見ご感想について

審議委員（B）

- ・コミュニティエフエムという枠組みの中で、地域情報の収集や取り上げ方をどうするか、また中立性をどう保っていくかが、ジャーナリズムの一角を担うものとして今後問われてくるのではないかと。
- ・長い間放送をしていると、どうしても独りよがりの放送に傾きかねない。その対策はどう考えているのか。また、放送作家や構成作家などの人員も必要ではないかと。

審議委員（A）

- ・リスナーのターゲットをどこに置いているのか。また、地域のラジオ局としてのあり方をも少し検討して、より良い地域メディアづくりに励んでほしい。

一各審議委員からの意見に対し、事務局からの回答は以下の通り。

- ・地域情報や地域とのかかわりについては、今後とも精力的に区役所はじめ自治会やその他区内の団体と更に連携していきたい。また、防災減災のコミュニティエフエムとしての存在意義をいっそう高めたい。
- ・地域メディアとしての中立性は重要だが、具体的にはパーソナリティ教育が必要である事と、特に「ニュース番組」などは読売新聞提供のニュースを中心に提供しているが、ニュース枠のうち 3 分の 1 程度は地域に特化したニュースを読み上げるよう指導はしているものの、ニュースの加工が大変で、なかなか実現していない。今後とも地元で根ざした取り組みを考えていきたい。
- ・番組を向上させるための放送作家などの人員確保は経済的に難しい。放送局として、パーソナリティが市民記者としての自覚を持ってもらう教育が必要だが、今後の課題としたい。
- ・番組編成は時間帯によってリスナー・ターゲットを見据えて、番組提供を心掛けている。また、「ハグ・ザ・ライフ」番組のようにターゲットを明確にして番組づくりをして場合もある。今後は、幅広く意見をお伺いしながら、リスナーに届く内容に努力して行きたい。

■審議会は、次回の日程を確認し終了した。

次回開催日：平成 31 年 1 月 23 日（水）14：00～15：00